

# 8章

## 共通メニューの設定

8.1	共通メニューの概要 .....	224
8.1.1	メニューについて .....	224
8.1.2	共通メニューについて .....	225
8.2	共通メニューの設定を変更する .....	228
8.2.1	共通メニューの項目一覧 .....	228
8.2.2	共通メニューの設定を変更する .....	245
8.3	共通メニュー一覧 .....	246

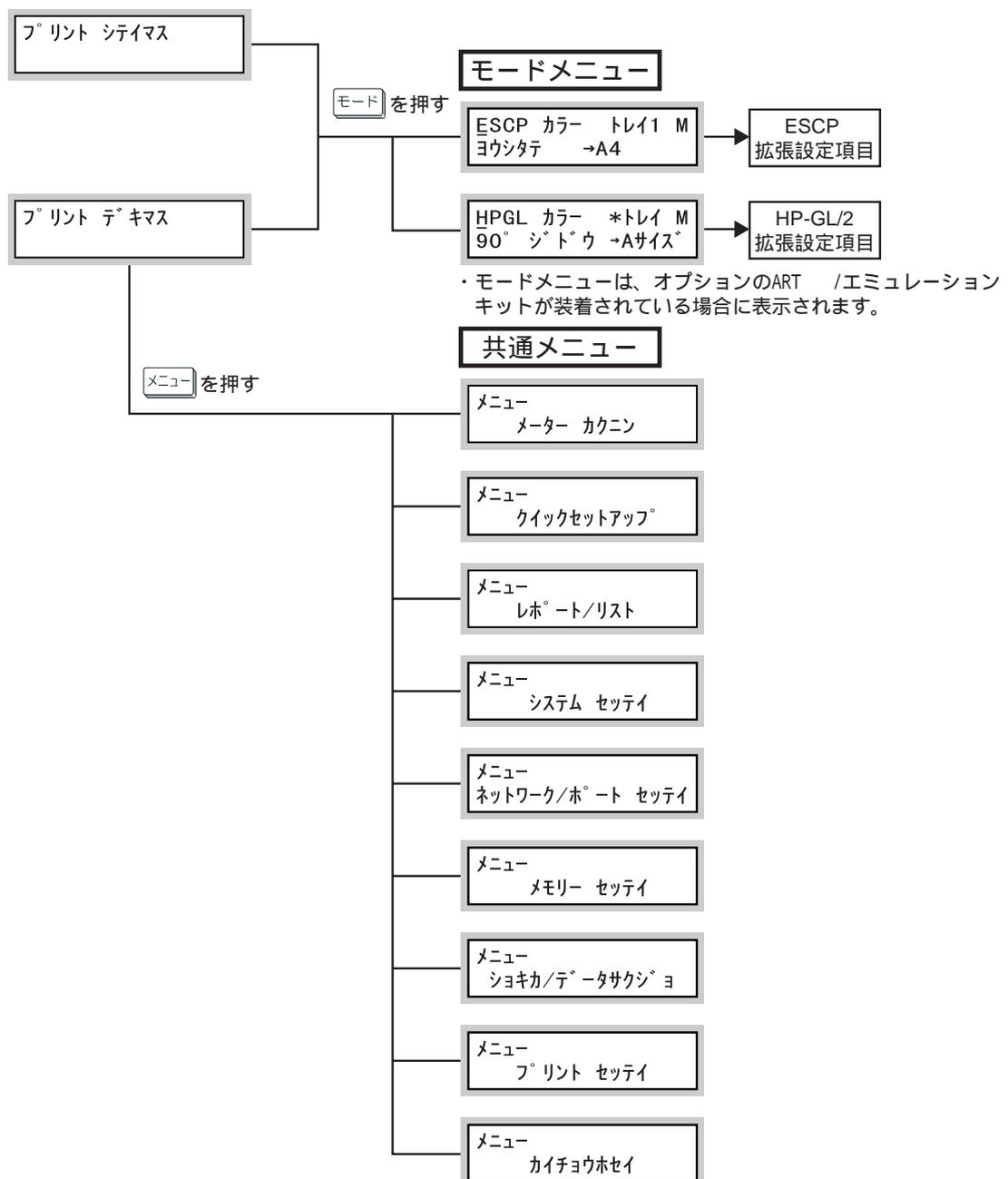
# 8.1 共通メニューの概要

## 8.1.1 メニューについて

メニューには、「共通メニュー」と「モードメニュー」があります。

### 参照

モードメニューは、オプションのART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。モードメニューについては、『ART /エミュレーションキット取扱説明書』を参照してください。



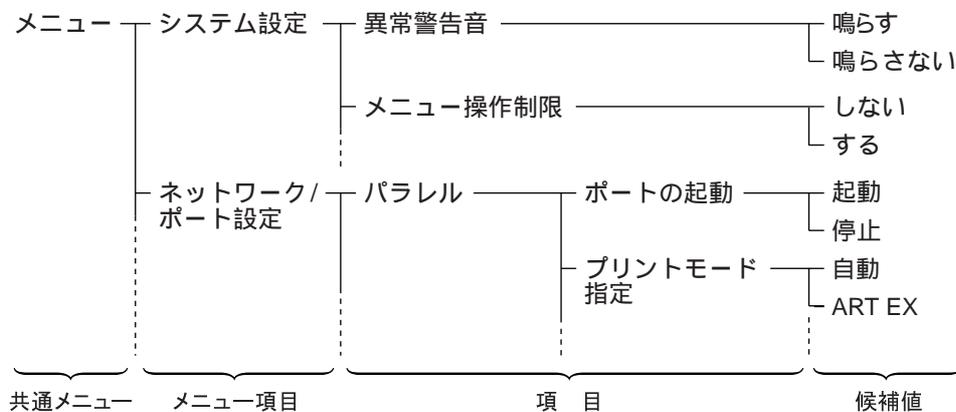
## 8.1.2 共通メニューについて

共通メニューは、メーター確認、クイックセットアップ、レポート/リスト、システム設定、ネットワーク/ポート設定、メモリー設定、初期化/データ削除、プリント設定、階調補正から構成されています。すべてのプリントモードに共通の項目を設定する画面です。

共通メニューは、次のような階層で構成されています。

- 共通メニュー > メニュー項目 > 項目 > 候補値

下の図は、共通メニューの階層の一部を示したものです。



### ●●● メーター確認

メーター確認メニューは、印刷した枚数をディスプレイに表示するメニューです。

#### 参照

メーター確認の操作は、「6.4 総印刷枚数を確認する (P.167)」を参照してください。

### ●●● クイックセットアップ

クイックセットアップメニューは、一連の流れに従って、プリンターを使うための必要最低限の設定をするためのメニューです。

#### 参照

クイックセットアップについては、「1.2 プリンター本体を簡単にセットアップする (P.6)」を参照してください。また、詳細な設定をする場合は、「8.2 共通メニューの設定を変更する (P.228)」を参照してください。

### ●●● レポート/リスト

レポート/リストメニューは、オプションのエミュレーションモードの設定内容、プリンターの設定情報、エラー履歴、ジョブ履歴、フォントに関する情報、出力の集計など本機内部の情報を印刷し、確認するためのメニューです。

#### 参照

レポート/リストメニューについて詳しくは、「6.3 レポート/リストを印刷する (P.149)」を参照してください。

### ●●● システム設定

システム設定メニューは、警告音、節電モード、システム時計など本機の動作設定を行うためのメニューです。

#### 参照

システム設定メニューで設定できる項目および操作は、「8.2 共通メニューの設定を変更する (P.228)」を参照してください。

### ●●● ネットワーク/ポート設定

ネットワーク/ポート設定メニューは、クライアントに接続されている本機のインターフェイスの種類、およびその通信に必要な条件を設定するためのメニューです。

#### 補足

「停止」に設定されているポートの各種設定はできません。

#### 参照

ネットワーク/ポート設定メニューで設定できる項目および操作は、「8.2 共通メニューの設定を変更する (P.228)」を参照してください。

### ●●● メモリー設定

メモリー設定メニューは、各インターフェイスのメモリーや、フォームメモリーの容量の変更などを行うためのメニューです。

#### 補足

「停止」に設定されているポートの各種設定はできません。

#### 参照

メモリー設定メニューで設定できる項目および操作は、「8.2 共通メニューの設定を変更する (P.228)」を参照してください。

### ●●● 初期化/データ削除

初期化/データ削除メニューは、プリンター設定値、ハードディスクなどの初期化やフォームデータなどを削除するためのメニューです。

#### 参照

初期化/データ削除メニューで設定できる項目および操作は、「8.2 共通メニューの設定を変更する」(P.228)を参照してください。

### ●●● プリント設定

プリント設定メニューは、用紙や用紙トレイについて設定するためのメニューです。

#### 参照

プリント設定メニューで設定できる項目および操作は、「8.2 共通メニューの設定を変更する」(P.228)を参照してください。

### ●●● 階調補正

印刷画質の色階調がずれた場合に、階調を補正するためのメニューです。

#### 参照

階調補正については、「6.5 階調を補正する」(P.172)を参照してください。

ここでは、共通メニューで設定できる項目と、その操作方法について説明します。

## 8.2.1 共通メニューの項目一覧

共通メニューで設定できる項目について、システム設定、ネットワーク/ポート設定、メモリー設定、初期化/データ削除、プリント設定に分けて説明します。

### 参照

上記のメニューの設定方法については、「8.2.2 共通メニューの設定を変更する」(P.245)を参照してください。また、上記以外のメーター確認メニューについては「6.4 総印刷枚数を確認する」(P.167)、クイックセットアップメニューについては「1.2 プリンター本体を簡単にセットアップする」(P.6)、レポート/リストメニューについては「6.3 レポート/リストを印刷する」(P.149)、階調補正については、「6.5 階調を補正する」(P.172)を参照してください。

### 補足

CentreWare Internet Servicesを使用すると、さらに詳細な設定ができます。詳しくは、「5.1 クライアントからプリンターを設定する(CentreWare Internet Services)」(P.110)を参照してください。

## ●●● システム設定一覧

システム設定メニューは、警告音、節電モード、システム時計など、本機の動作設定を行うためのメニューです。

### 異常警告音

本機に異常が発生したときに、警告音を鳴らすかどうかを設定します。初期値は【ナラサナイ】です。音量の調整はできません。

### 操作パネル制限 補足(1)

メニュー操作とモードメニュー操作に、パスワードによる制限をかけるかどうかを設定します。【スル】に設定すると、メニュー操作時とモードメニュー操作時にパスワードの入力が必要になります。初期値は【シナイ】です。なお、モードメニューは、オプションのART /エミュレーションキットが装着されている場合に使用できます。

### 補足

【スル】に設定したときにパスワードが設定されていないと、パスワード設定画面が表示されます。パスワードを4桁の数字で入力してください。

### パスワードの変更 補足(1)

操作パネル制限を設定している場合のパスワードを変更できます。パスワードを4桁の数字で入力してください。

### 補足

操作パネル制限を【スル】に設定しないと、パスワードを変更できません。

**ポーズ自動解除** \*補足(1)

ポーズ状態を自動的に解除するかどうかを設定します。解除しないか、解除する時間を1分後、2分後、または3～30分の間で1分単位に設定します。初期値は【シナイ】です。

**節電モード**

節電モード(スリープモード)は、一定の時間が経過すると、自動的に機械の消費電力を節約する機能です。この機能を使用するかどうかを設定します。初期値は【ユウコウ】です。

**補足**

節電モードについては、「3.3 節電機能を利用する」(P.59)を参照してください。

**節電モード移行時間** \*補足(1)

節電モード(スリープモード)に移行するまでの時間を15～240分の間で1分単位に設定します。節電モードになると、**節電**が点灯します。初期値は【30フンゴ】です。

**補足**

節電モードについては、「3.3 節電機能を利用する」(P.59)を参照してください。

**システム時計** \*補足(1)

本機のシステム時計の日付(年/月/日)と時刻(時/分)を、西暦(4桁、2000～2099年の範囲)・24時間表示で設定します。ここで設定された日付/時刻がリストやレポートに印刷されます。  
日付：2001年01月01日のように、YYYY/MM/DDの形式で設定します。  
時刻：12時02分のように、HH/MMの形式で設定します。

**自動ジョブ履歴**

処理を行ったプリントジョブに関する情報(ジョブ履歴レポート)を、自動的に印刷するかどうかを設定します。  
【シュツリョクスル】に設定すると、過去に自動で排出されていないジョブ履歴が、記憶領域いっぱいになった時点(50件)で、古いものから自動的に印刷されます。実行中や実行待ちのプリントジョブは記録されません。  
初期値は【シュツリョクシナイ】です。

**レポート両面プリント**

本機が両面印刷機能付きの場合で、レポート/リストを印刷するときに、片面に印刷するか両面に印刷するかを設定します。初期値は【カタメン】です。

**ART EXの起動**

メモリー不足が発生して、PostScript(オプション)で印刷できないときに、ART EXを停止して、PostScriptファイル格納用メモリーを増やすことができます。初期値は【キドウ】です。この項目は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。

**プリント可能領域**

プリント可能領域を拡張するかどうかを設定します。オプションのエミュレーション(ESC/Pは除く)やPostScriptで印刷する場合に有効です。初期値は【ヒョウジュン】です。

## ●● ネットワーク/ポート設定一覧

ネットワーク/ポート設定メニューは、クライアントに接続されている本機のインターフェイスの種類、およびその通信に必要な条件を設定するためのメニューです。

### パラレル

パラレルインターフェイスを使う場合に設定します。

#### ポートの起動

電源を入れたときに、パラレルインターフェイスの状態を「起動」にするか「停止」にするかを設定します。初期値は【キドウ】で、パラレルインターフェイスを使う設定になっています。

#### 注記

ポートを【キドウ】にしたときに、メモリーが不足すると、ポート状態が自動的に【テイシ】に設定されることがあります。この場合は、使っていないポートのポート状態を【テイシ】にするか、メモリー割り当て容量を変更してください。

#### プリントモード指定（注記1）

印刷データの処理方法(使用するプリント言語)を設定します。

候補値は、以下のとおりです。

#### 【ジドウ】（初期値）

クライアントから受信したデータが、どのプリント言語で記述されているかを自動で判別し、データに合わせて適切な印刷を行います。

#### 【ART EX】【PS】【ART4】【HP-GL/2】【ESC/P】

クライアントから受信したデータを、それぞれのデータとして処理します。【PS】は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。【ART4】【HP-GL/2】【ESC/P】は、ART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

#### 【HexDump】（補足2）

クライアントから受信したデータの内容を確認するため、印刷データを16進表記形式と対応するASCIIコードで印刷します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキット、またはART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

#### JCL（注記2）

本機では、どのプリント言語にも依存しないJCLコマンドが使えます。JCLコマンドとは、印刷ジョブを制御するコマンドで、プリンタードライバーを使って印刷する場合に必要です。ここでは、クライアントから送られてくるJCLコマンドを有効にするか無効にするかを設定します。JCLコマンドを使うと、その時点で本機がどのプリント言語で処理していても、次のデータのプリント言語を指定できます。通常は【ユウコウ】にします。初期値は【ユウコウ】です。

#### Adobe通信プロトコル

PostScriptの通信プロトコルを設定します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。

候補値は、以下のとおりです。

#### 【ヒョウジュン】（初期値）

通信プロトコルがASCII形式のときに設定します。

#### 【バイナリー】

通信プロトコルがバイナリー形式のときに設定します。データによっては印刷処理が【ヒョウジュン】に比べて速くなることがあります。

次ページへ

**パラレル** 前ページより**【TBCP】**

通信プロトコルにASCII形式とバイナリー形式が混在し、それらを特定の制御コードによって切り替えるときに設定します。

**補足**

- クライアントのプリンタードライバーが出力するデータの形式に合わせて設定してください。
- 通常は、初期値の【ヒョウジュン】で使用してください。
- ここでの設定は、パラレルのプリントモード指定が【PS】の場合にだけ有効です。

**自動排出時間** 補足(1)

データが受信されない状態が継続したとき、本機内に残っているデータを自動的に印刷して排出する時間を設定します。

時間は5～1275秒の間で、5秒単位に設定します。初期値は【30ビョウ】です。また、最後のデータを受信してから、ここで設定した時間内に次のデータが受信されない場合は、ジョブの終了と判断されます。

**双方向通信**

パラレルインターフェースの双方向送信(IEEE1284)を有効にするか無効にするかを設定します。初期値は【ユウコウ】です。

**インプットプライム**

INPUT\_PRIME制御(ハードウェアリセット)を有効にするか無効にするかを設定します。INPUT\_PRIME信号を受信すると、リセット処理が行われます。初期値は【ユウコウ】です。

**補足**

この設定は、エミュレーションで使います。

**注記**

クライアントによっては、印刷するたびにINPUT\_PRIME信号が出力されてリセット処理が行われるので、操作パネルから指定したメニュー操作の内容が印刷結果に反映されないことがあります。このような場合は【ムコウ】を指定することによって、メニュー操作の内容を反映できます。

**lpd**

lpdを使う場合に設定します。

**ポートの起動**

電源を入れたときに、lpdポートの状態を「起動」にするか「停止」にするかを設定します。初期値は【キドウ】で、lpdを使う設定になっています。

**補足**

lpdポートを起動するには、IPアドレスの設定が必要です。

**注記**

ポートを【キドウ】にしたときに、メモリーが不足すると、ポート状態が自動的に【テイシ】に設定されることがあります。この場合は、使っていないポートのポート状態を【テイシ】にするか、メモリー割り当て容量を変更してください。

次ページへ

lpd

前ページより

プリントモード指定 \*注記(1)

印刷データの処理方法(使用するプリント言語)を設定します。

候補値は、以下のとおりです。

【ジドウ】(初期値)

クライアントから受信したデータが、どのプリント言語で記述されているかを自動で判別し、データに合わせて適切な印刷を行います。

【ART EX】【PS】【ART4】【HP-GL/2】【ESC/P】

クライアントから受信したデータを、それぞれのデータとして処理します。【PS】は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。【ART4】【HP-GL/2】【ESC/P】は、ART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

【HexDump】 \*補足(2)

クライアントから受信したデータの内容を確認するため、印刷データを16進表記形式と対応するASCIIコードで印刷します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキット、またはART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

JCL \*注記(2)

本機では、どのプリント言語にも依存しないJCLコマンドが使えます。JCLコマンドとは、印刷ジョブを制御するコマンドで、プリンタードライバーを使って印刷する場合に必要です。ここでは、クライアントから送られてくるJCLコマンドを有効にするか無効にするかを設定します。JCLコマンドを使うと、その時点で本機がどのプリント言語で処理していても、次のデータのプリント言語を指定できます。通常は【ユウコウ】にします。初期値は【ユウコウ】です。

コネクションタイムアウト \*補足(1)

印刷データの受信中に、データが送られなくなってから接続を切断するまでの時間を、2~3600秒の間で、1秒単位に設定します。初期値は【16ビョウ】です。

TBCPフィルター

PostScriptデータを処理するとき、TBCPフィルターを有効にするか無効にするかを設定します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。初期値は【ムコウ】です。

受け付けIPの制限

印刷を受け付けるIPアドレスを制限するかしないかを設定します。【スル】に設定すると、登録されているIPアドレス以外からの印刷を受け付けません。初期値は【シナイ】です。

**補足**

【スル】に設定しても、登録されているIPアドレスがすべて000.000.000.000の場合は、無効となります。

受け付けIPの登録 \*補足(1)

受け付けIPの制限機能を使う場合に、印刷を受け付けるIPアドレスを登録します。IPアドレスは、10個まで登録できます。登録したIPアドレスには、アドレスマスクを設定します。IPアドレス、アドレスマスクは、xxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。xxxは0~255までの数値です。

## NetWare

NetWareを使う場合に設定します。

## ポートの起動

電源を入れたときに、NetWareポートの状態を「起動」にするか「停止」にするかを設定します。初期値は【テイシ】です。NetWareを使う場合、【キドウ】に設定してください。

**注記**

ポートを【キドウ】にしたときに、メモリーが不足すると、ポート状態が自動的に【テイシ】に設定されることがあります。この場合は、使っていないポートのポート状態を【テイシ】にするか、メモリー割り当て容量を変更してください。

## トランスポートプロトコル

NetWareで使うトランスポート層のプロトコルを設定します。IPX/SPX、TCP/IPのどちらか、または両方が使えます。初期値は【TCP/IP, IPX/SPX】です。

**補足**

TCP/IPを使う場合は、クライアント側、本機側ともにIPアドレスが必要です。

## プリントモード指定 \*注記(1)

印刷データの処理方法(使用するプリント言語)を設定します。候補値は、以下のとおりです。

## 【ジドウ】(初期値)

クライアントから受信したデータが、どのプリント言語で記述されているかを自動で判別し、データに合わせて適切な印刷を行います。

## 【ART EX】【PS】【ART4】【HP-GL/2】【ESC/P】

クライアントから受信したデータを、それぞれのデータとして処理します。【PS】は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。【ART4】【HP-GL/2】【ESC/P】は、ART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

## 【HexDump】 \*補足(2)

クライアントから受信したデータの内容を確認するため、印刷データを16進表記形式と対応するASCIIコードで印刷します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキット、またはART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

## JCL \*注記(2)

本機では、どのプリント言語にも依存しないJCLコマンドが使えます。JCLコマンドとは、印刷ジョブを制御するコマンドで、プリンタードライバーを使って印刷する場合に必要です。ここでは、クライアントから送られてくるJCLコマンドを有効にするか無効にするかを設定します。JCLコマンドを使うと、その時点で本機がどのプリント言語で処理していても、次のデータのプリント言語を指定できます。通常は【ユウコウ】にします。初期値は【ユウコウ】です。

## 検索回数 \*補足(1)

ファイルサーバーを検索する回数を設定します。

1~100回の間で1回単位、または上限なしを設定します。検索間隔は、1分です。初期値は【ジョウゲンナシ】です。

## TBCPフィルター

PostScriptデータを処理するときに、TBCPフィルターを有効にするか無効にするかを設定します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。初期値は【ムコウ】です。

### SMB

SMBを使う場合に設定します。

#### ポートの起動

電源を入れたときに、SMBポートの状態を「起動」にするか「停止」にするかを設定します。初期値は【キドウ】で、SMBを使う設定になっています。

#### 注記

ポートを【キドウ】にしたときに、メモリーが不足すると、ポート状態が自動的に【テイシ】に設定されることがあります。この場合は、使っていないポートのポート状態を【テイシ】にするか、メモリー割り当て容量を変更してください。

#### トランスポートプロトコル

SMBで使うトランスポート層のプロトコルを設定します。NetBEUI、TCP/IPのどちらか、または両方が使えます。初期値は【TCP/IP,NetBEUI】です。

#### 補足

TCP/IPを使う場合は、クライアント側、本機側ともにIPアドレスが必要です。

#### プリントモード指定 注記(1)

印刷データの処理方法(使用するプリント言語)を設定します。

候補値は、以下のとおりです。

#### 【ジドウ】(初期値)

クライアントから受信したデータが、どのプリント言語で記述されているかを自動で判別し、データに合わせて適切な印刷を行います。

#### 【ART EX】【PS】【ART4】【HP-GL/2】【ESC/P】

クライアントから受信したデータを、それぞれのデータとして処理します。【PS】は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。【ART4】【HP-GL/2】【ESC/P】は、ART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

#### 【HexDump】 補足(2)

クライアントから受信したデータの内容を確認するため、印刷データを16進表記形式と対応するASCIIコードで印刷します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキット、またはART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

#### JCL 注記(2)

本機では、どのプリント言語にも依存しないJCLコマンドが使えます。JCLコマンドとは、印刷ジョブを制御するコマンドで、プリンタードライバーを使って印刷する場合に必要です。ここでは、クライアントから送られてくるJCLコマンドを有効にするか無効にするかを設定します。JCLコマンドを使うと、その時点で本機がどのプリント言語で処理していても、次のデータのプリント言語を指定できます。通常は【ユウコウ】にします。初期値は【ユウコウ】です。

#### TBCPフィルター

PostScriptデータを処理するときに、TBCPフィルターを有効にするか無効にするかを設定します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。初期値は【ムコウ】です。

## IPP

IPPを使う場合に設定します。

## ポートの起動

電源を入れたときに、IPPポートの状態を「起動」にするか「停止」にするかを設定します。初期値は【テイシ】です。IPPを使う場合、【キドウ】に設定してください。

## 補足

IPPポートを起動するには、IPアドレスの設定が必要です。

## 注記

ポートを【キドウ】にしたときに、メモリーが不足すると、ポート状態が自動的に【テイシ】に設定されることがあります。この場合は、使っていないポートのポート状態を【テイシ】にするか、メモリー割り当て容量を変更してください。

## プリントモード指定（注記1）

印刷データの処理方法(使用するプリント言語)を設定します。

候補値は、以下のとおりです。

## 【ジドウ】（初期値）

クライアントから受信したデータが、どのプリント言語で記述されているかを自動で判別し、データに合わせて適切な印刷を行います。

## 【ART EX】【PS】【ART4】【HP-GL/2】【ESC/P】

クライアントから受信したデータを、それぞれのデータとして処理します。【PS】は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。【ART4】【HP-GL/2】【ESC/P】は、ART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

## 【HexDump】（補足2）

クライアントから受信したデータの内容を確認するため、印刷データを16進表記形式と対応するASCIIコードで印刷します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキット、またはART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

## JCL（注記2）

本機では、どのプリント言語にも依存しないJCLコマンドが使えます。JCLコマンドとは、印刷ジョブを制御するコマンドで、プリンタードライバーを使って印刷する場合に必要です。ここでは、クライアントから送られてくるJCLコマンドを有効にするか無効にするかを設定します。JCLコマンドを使うと、その時点で本機がどのプリント言語で処理していても、次のデータのプリント言語を指定できます。通常は【ユウコウ】にします。初期値は【ユウコウ】です。

## TBCPフィルター

PostScriptデータを処理するとき、TBCPフィルターを有効にするか無効にするかを設定します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。初期値は【ムコウ】です。

## アクセス権制御

印刷ジョブの中止や削除、本機をポーズ状態にするときやポーズ状態の解除をするときに、アクセス権制御を有効にするか無効にするかを設定します。初期値は【ムコウ】です。

## DNS使用

本機を認識するとき、DNS( Domain Name System )に登録した名前を使うかどうかを設定します。初期値は【ユウコウ】で、DNS名を使用するようになっています。【ムコウ】にすると、IPアドレスを使って本機を認識します。

次ページへ

### IPP 前ページより

追加ポート番号 補足(1)

追加ポート番号を0、80、または8000～9999の間で設定します。初期値は【80】です。

タイムアウト

印刷データの受信中、データが送られなくなってから接続を切断するまでの時間を、0～65535秒の間で1秒単位に設定します。初期値は【60ピヨウ】です。

### EtherTalk

EtherTalkを使う場合に設定します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。

ポートの起動

電源を入れたときに、EtherTalkポートの状態を「起動」にするか「停止」にするかを設定します。初期値は【テイシ】です。EtherTalkを使う場合、【キドウ】を設定してください。

#### 注記

ポートを【キドウ】にしたときに、メモリーが不足すると、ポート状態が自動的に【テイシ】に設定されることがあります。この場合は、使っていないポートのポート状態を【テイシ】にするか、メモリー割り当て容量を変更してください。

JCL 注記(2)

本機では、どのプリント言語にも依存しないJCLコマンドが使えます。JCLコマンドとは、印刷ジョブを制御するコマンドで、プリンタードライバーを使って印刷する場合に必要です。ここでは、クライアントから送られてくるJCLコマンドを有効にするか無効にするかを設定します。JCLコマンドを使うと、その時点で本機がどのプリント言語で処理していても、次のデータのプリント言語を指定できます。通常は【ユウコウ】にします。初期値は【ユウコウ】です。

### SNMP設定

SNMPを使う場合に設定します。SNMPの設定は、複数台のプリンターをリモートで管理するアプリケーションを使う場合に必要です。プリンターの情報はSNMPで管理されていて、アプリケーションはSNMPからプリンターの情報を収集します。

ポートの起動

電源を入れたときに、SNMPポートの状態を「起動」にするか「停止」にするかを設定します。初期値は【キドウ】で、SNMPを使う設定になっています。

#### 注記

ポートを【キドウ】にしたときに、メモリーが不足すると、ポート状態が自動的に【テイシ】に設定されることがあります。この場合は、使っていないポートのポート状態を【テイシ】にするか、メモリー割り当て容量を変更してください。

トランスポートプロトコル

SNMPで使うトランスポート層のプロトコルを設定します。IPX、UDPのどちらか、または両方が使えます。初期値は【UDP】です。

#### 補足

- UDPを使う場合は、クライアント側、本機側ともにIPアドレスが必要です。
- IPX、UDPどちらのプロトコルを使うかは、アプリケーションの説明書を参照してください。

次ページへ

## SNMP設定 前ページより

## コミュニティ登録(R)

プリンターの管理情報(MIB)を読み出すためのコミュニティ名を、英数/半角カタカナ文字を使って、1~12文字の間で設定します。初期値は【ミトウロク】です。

## コミュニティ登録(R/W)

プリンターの管理情報(MIB)を読み書きするためのコミュニティ名を、英数/半角カタカナ文字を使って、1~12文字の間で設定します。初期値は【ミトウロク】です。

## コミュニティ登録(Trap)

トラップで使用するコミュニティ名を、英数/半角カタカナ文字を使って、1~12文字の間で設定します。初期値は【ミトウロク】です。

## インターネットサービス

インターネットサービスを使うかどうかを設定します。

【キドウ】に設定すると、「CentreWare Internet Services」を利用し、Webブラウザを介して本機の状態やジョブの状態を表示したり、本機の設定を変更したりできます。初期値は【キドウ】です。

## 補足

インターネットサービスを起動する場合は、クライアント側、本機側ともにIPアドレスの設定が必要です。

## TCP/IP設定

## IPアドレス取得方法

TCP/IPを使うために必要な情報(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス)をDHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)サーバー、またはBOOTPから自動的に取得するか、手動で指定するかを設定します。手動で設定するアドレスについては、ネットワーク管理者に確認してください。初期値は【DHCP】です。

## 補足

【DHCP】または【BOOTP】から、【シュドウ】に変更すると、IPアドレスの設定画面が表示されるので、手動でIPアドレスを設定してください。

## IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス 補足(1)

これらの項目は、自動で取得されたアドレスを確認する場合や手動でアドレスを設定する場合に使用します。アドレスをxxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。xxxは0~255までの数値です。

## 注記

- 誤ったIPアドレスを設定すると、ネットワーク全体に悪影響を及ぼすことがあります。
- サブネットマスクの設定では、正しい値を入力しなかった場合(途中のビットを"0"に設定した場合など)、数値の設定後に[戻る]を押しても、前回の設定値に戻ります。正しい値が設定されるまで、ほかの項目設定へ移行できません。
- 明示的にゲートウェイアドレスを指定する必要があるときだけ設定してください。動的にゲートウェイアドレスが設定できる環境では、設定する必要はありません。

---

### WINSサーバー設定

#### DHCPからアドレス取得

WINS(Windows Internet Name Service)を利用するために必要な、WINSサーバーのIPアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得するか、手動で取得するかを指定します。手動で設定するアドレスについては、ネットワーク管理者に確認してください。初期値は【スル】です。

#### 補足

【スル】から【シナイ】に変更すると、IPアドレスの設定画面が表示されるので、手動でIPアドレスを設定してください。

#### プライマリIPアドレス、セカンダリIPアドレス 補足(1)

これらの項目は、自動で取得されたアドレスを確認する場合や手動でアドレスを設定する場合に使用します。アドレスをxxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。xxxは0~255までの数値です。プライマリIPアドレスが無効の場合、セカンダリIPアドレスも無効になります。

#### 注記

誤ったIPアドレスを設定すると、ネットワーク全体に悪影響を及ぼすことがあります。

---

### IPX/SPXフレームタイプ

IPX/SPXの動作フレームタイプを設定します。

候補値は、以下のとおりです。

【ジドウ】(初期値)

フレームタイプを自動で設定します。

【Ethernet 〇〇】

Ethernet仕様のフレームタイプを使います。

【Ethernet 802.3】

IEEE802.3仕様のフレームタイプを使います。

【Ethernet 802.2】

IEEE802.3/IEEE802.2仕様のフレームタイプを使います。

【Ethernet SNAP】

IEEE802.3/IEEE802.2/SNAP仕様のフレームタイプを使います。

---

### Ethernet設定

Ethernetインターフェイスの通信速度/コネクタの種類を設定します。

候補値は、以下のとおりです。

【ジドウ】(初期値)

100BASE-TXと10BASE-Tを自動的に切り替えます。

【100BASE-TX】

100BASE-TXに固定して使う場合に選択します。

【10BASE-T】

10BASE-Tに固定して使う場合に選択します。

## ●●● メモリー設定一覧 補足(1)

メモリー設定メニューは、各インターフェイスのメモリーや、フォームメモリーの容量の変更などを行うためのメニューです。

### 注記

- メモリー容量を変更すると、メモリーがリセットされるので、各メモリー領域に格納されているデータは、すべて消去されます。
- メモリーの全体量を超えた割り振りはできません。電源を入れたときに、設定値が搭載メモリー容量を超えた場合は、システムによって自動的に調整されます。メモリーの割り振りについて詳しくは、「1.6 メモリーの割り当てについて (P.19)」を参照してください。

### PS使用メモリー

PostScriptの使用メモリー容量を指定します。この項目は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。

8.00～32.00MBの間で、0.25MB単位にメモリー容量を設定します。初期値は【16.00M】です。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

### ART EXフォームメモリー

ART EXプリンタードライバー用フォームのメモリー容量を指定します。

32～2048KBの間で、32KB単位にメモリー容量を設定します。初期値は【128K】です。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

内蔵増設ハードディスク装置が装着されている場合は、フォーム用のメモリーはハードディスクが使用されます。容量は変更できません。ディスプレイには【ハードディスク】と表示されます。

### ART4フォームメモリー

ART 用フォームのメモリー容量を指定します。この項目は、ART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

32～2048KBの間で、32KB単位にメモリー容量を設定します。初期値は【128K】です。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

内蔵増設ハードディスク装置が装着されている場合は、フォーム用のメモリーはハードディスクが使用されます。容量は変更できません。ディスプレイには【ハードディスク】と表示されます。

### ART4ユーザー定義メモリー

ART のユーザー定義で使うメモリー容量を指定します。この項目は、ART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

32～2048KBの間で、32KB単位にメモリー容量を設定します。初期値は【32K】です。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

### HPGLオートレイアウトメモリー

HP-GL/2オートレイアウトで使うメモリー容量を指定します。この項目は、ART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

64～5120KBの間で、32KB単位にメモリー容量を設定します。初期値は【64K】です。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

内蔵増設ハードディスク装置が装着されている場合は、オートレイアウト用のメモリーはハードディスクが使用されます。容量は変更できません。ディスプレイには【ハードディスク】と表示されます。

### 受信バッファ容量

インターフェイスごとに、受信バッファ(クライアントから送信されるデータを一時的に蓄えておく場所)のメモリー容量を設定します。Ipd、SMB、IPPの場合は、スプール処理の有無、配置場所、メモリー容量をそれぞれ設定します。

受信バッファ容量は、使用状況と目的に応じて変更できます。受信バッファ容量を増やすと、各インターフェイスに対応するクライアントの解放が早くなる場合があります。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

#### 補足

- ポート状態が【テイシ】に設定されている場合は、対応する各項目は表示されません。
- クライアントから送信されるデータ量によっては、メモリーの容量を増やしてもクライアントの解放時間が変わらない場合があります。

候補値は、以下のとおりです。

パラレルメモリー、NetWareメモリー、IPPメモリー、EtherTalkメモリー  
64～1024KBの間で、32KB単位にメモリー容量を設定します。初期値はパラレルは【64K】、そのほかは【256K】です。【EtherTalk】は、PostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に表示されます。

Ipdスプール、SMBスプール  
【スプールシナイ】(初期値)

スプール処理は行われません。あるクライアントからのIpd、SMBの印刷処理をしている間は、ほかのクライアントからの同じインターフェイスでのデータを受信できません。

Ipd、SMB専用の受信バッファのメモリー容量を、64～1024KBの間で32KB単位に設定します。初期値は【256K】です。

【ハードディスクスプール】

スプール処理を行います。スプール処理用の受信バッファは、ハードディスクが使用されません。この項目は、内蔵増設ハードディスク装置が装着されている場合に表示されます。

【メモリースプール】

スプール処理を行います。スプール処理用の受信バッファは、メモリーが使用されます。この候補値を選択したときは、スプール処理用の受信バッファのメモリー容量を、0.25～32.00MBの間で0.25MB単位に設定します。初期値は【1.00M】です。なお、設定したメモリー容量よりも大きい印刷データは、受信できません。このようなときは、【ハードディスクスプール】、または【スプールシナイ】を選択してください。

IPPスプール

この項目は、内蔵増設ハードディスク装置が装着されている場合に表示されます。

【スプールシナイ】(初期値)

スプール処理は行われません。あるクライアントからのIPPの印刷処理をしている間は、ほかのクライアントからの同じインターフェイスでのデータを受信できません。

IPP専用の受信バッファのメモリー容量を、64～1024KBの間で32KB単位に設定します。初期値は【256K】です。

【ハードディスクスプール】

スプール処理を行います。スプール処理用の受信バッファは、ハードディスクが使用されます。

## ●●● 初期化/データ削除一覧

NVメモリーに記憶されているプリンター設定値、ハードディスク、集計レポートの初期化、および本機に登録されているフォームなどのデータを削除できます。

### 補足

初期化によってそれぞれの設定は、初期値に戻ります。初期値については、「8.3 共通メニュー一覧」(P.246)を参照してください。

---

### NVメモリー初期化

NVメモリーを初期化します。NVメモリーとは、電源を切っても本機の設定内容を保持しておくことができる不揮発性のメモリーのことです。

NVメモリーを初期化すると、各種項目の候補値は初期値に戻ります。

---

### ハードディスク初期化

内蔵増設ハードディスク装置を初期化します。初期化によって消去されるデータは、追加フォント、ART EX、ART (オプション)、HP-GL/2 (オプション)の各フォーム、ART ユーザー定義データ、SMBフォルダーです。セキュリティープリント文書、各ログは、消去されません。この項目は、内蔵増設ハードディスク装置が装着されている場合に表示されます。

---

### 集計レポート初期化

出力集計レポートの初期化を行います。初期化を行うと、集計値が0になります。

---

### フォームの削除

登録されているフォームがない場合は、【フォームトウロクハアリマセン】と表示されます。

#### ART EXフォーム削除

ART EXプリンタードライバー用フォームを削除します。

#### ART4フォーム削除

ART 用フォームを削除します。この項目は、ART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

#### ESC/Pフォーム削除

エミュレーションのESC/P用フォームを削除します。この項目は、ART /エミュレーションキットが装着されている場合に表示されます。

---

### セキュリティー文書削除

セキュリティープリントとして蓄積されている文書を削除します。文書がない場合は、【ユーザーIDミトウロク】と表示されます。

この項目は、内蔵増設ハードディスク装置が装着されている場合に表示されます。

### ●●● プリント設定一覧

プリント設定メニューは、自動トレイ選択や用紙トレイについて設定するためのメニューです。

#### 参照

自動トレイ選択について詳しくは、「6.1.2 用紙をセットする」の「●●●自動トレイ選択について」(P.128)を参照してください。

#### 用紙の置き換え

自動トレイ選択によって選択された用紙トレイに用紙がない場合に、ほかの用紙トレイにセットされている用紙に置き換えて印刷をするかどうかを設定します。置き換えをする場合は、サイズを指定します。候補値は、以下のとおりです。

【シナイ】(初期値)

置き換えはしないで、用紙補給のメッセージを表示します。

【スル(オオキサイズ)】

選択されている用紙サイズの次に大きなサイズの用紙に置き換えて、等倍で印刷します。

【スル(チカイサイズ)】

選択されている用紙サイズに最も近いサイズの用紙に置き換えて印刷します。必要に応じて、自動的にイメージを縮小することがあります。

#### 補足

クライアント側から指定があった場合は、クライアント側の指定が優先されます。

#### トレイの用紙種類

用紙トレイにセットする用紙の種類を設定します。初期値はすべての用紙トレイで【フツウシ】です。ユーザー1~5には、【用紙名称設定】で指定した名称が表示されます。

トレイ1~4

普通紙、再生紙、上質紙、ユーザー1~5から選択します。

トレイ5

普通紙、再生紙、上質紙、ラベル紙、OHPフィルム、薄紙、厚紙1、厚紙1うら、厚紙2、厚紙2うら、ユーザー1~5から選択します。ここでの設定は、クライアントから用紙の種類が通知されないときに有効となります。

#### 用紙の優先順位

自動トレイ選択によって選択される用紙トレイにセットされている用紙の種類の優先順位を設定します。ユーザー1~5には、【用紙名称設定】で指定した名称が表示されます。

普通紙、再生紙、上質紙、ユーザー1~5

それぞれの用紙種類について、優先順位を【シナイ】【1】~【8】から選択します。異なる用紙種類に同じ優先順位の設定もできます。その場合に選択される用紙トレイは、【トレイの優先順位】によって決定します。【シナイ】に設定すると、その用紙種類が設定されている用紙トレイは、自動トレイ選択の対象となりません。初期値は普通紙【1】、再生紙【2】、上質紙【3】、ユーザー1~5【シナイ】です。

### トレイの優先順位

用紙トレイ1~4について、自動トレイ選択によって選択される用紙トレイの優先順位を設定します。用紙トレイ5(手差し)は、自動トレイ選択の対象外です。

1~3

優先順位1~3を、【トレイ1】~【トレイ4】から選択します。各優先順位に同じ用紙トレイは設定できません。優先順位2が設定できる用紙トレイは、優先順位1で設定した用紙トレイ以外で、優先順位3が設定できる用紙トレイは、優先順位1と2で設定した用紙トレイ以外になります。残りの用紙トレイが優先順位4になります。初期値の優先順位は【トレイ1】~【トレイ4】の順番です。

### 用紙の画質処理

用紙に応じた画質処理の設定ができます。セットする用紙に合わせて、画質処理を設定してください。上質紙、普通紙、再生紙、ユーザー1~5の用紙に対して、画質の処理方法が設定できます。ユーザー1~5には、【用紙名称設定】で指定した名称が表示されます。

普通紙、再生紙、上質紙、ユーザー1~5

それぞれの用紙種類に、画質の処理方法を設定します。候補は、以下のとおりです。

【フツウシA】

J紙(82g/m<sup>2</sup>)など、カラー専用の上質紙に適した画質です。

【フツウシB】

一般的に使われているオフィス用紙(P紙、C<sup>2</sup>(シーツ)紙など)に適した画質です。

【フツウシC】

再生紙(C<sup>2</sup>(シーツ)アール紙、WR100紙など)に適した画質です。

【フツウシD】

地合が悪い用紙<sup>\*</sup>で、印刷時に画質のムラが発生する場合に選択します。

【フツウシE】

【フツウシD】の画質処理に加えて、低線数で処理します。【フツウシD】で印刷しても、画質のムラが目立つときに選択します。ただし、この画質処理は、[印刷モード]が[速度優先]にした場合と、[印刷モード]が[標準]、[画質調整モード]が[おすすめ]の場合で、[おすすめ画質タイプ]が[写真] または [プレゼンテーション] を選択して印刷した場合にだけ有効です。

【フツウシF】

地合が悪く、重さが90g/m<sup>2</sup>の用紙で、印刷時に画質のムラが発生する場合に選択します。

【フツウシG】

【フツウシF】の画質処理に加えて、低線数で処理します。【フツウシF】で印刷しても、画質のムラが目立つときに選択します。ただし、この画質処理は、[印刷モード]が[速度優先]にした場合と、[印刷モード]が[標準]、[画質調整モード]が[おすすめ]の場合で、[おすすめ画質タイプ]が[写真] または [プレゼンテーション] を選択して印刷した場合にだけ有効です。

【フツウシS】

99~105g/m<sup>2</sup>の普通紙でも厚手の用紙に適した画質です。

<sup>\*</sup>地合が悪い用紙とは、光に透かして見たときに、表面の透過度にムラが目立つ用紙です。

### 用紙名称設定

用紙の名称を5種類まで登録できます。登録できる用紙の種類は、普通紙、上質紙、再生紙です。

ユーザー1~5

英数/半角カタカナ文字を使って、1~12文字の間で設定します。

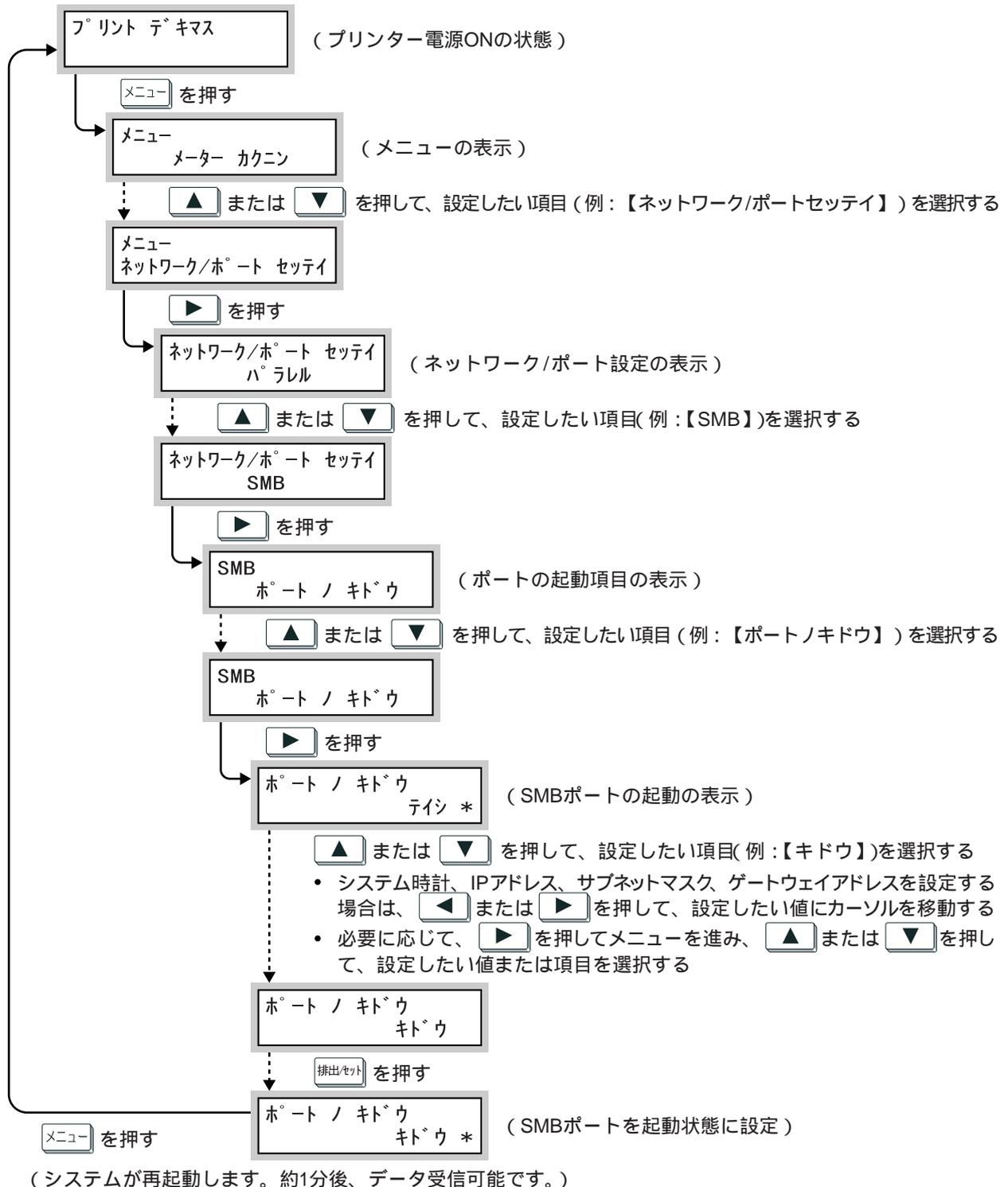
### センタートレイのオフセット

オフセット排出機能を使う場合の用紙の排出方法を設定します。【セットタンイ】【ジョブタンイ】【シナイ】から選択します。ここでの設定は、クライアント側からオフセット排出の指定がないときに有効となります。初期値は【セットタンイ】です。

- \*注記(1) 【ジドウ】設定時、自動判別の結果が本機に実装されていないプリント言語だった場合や、対象になるプリント言語に該当しない場合、そのデータは消去されます。
- (2) • 【ユウコウ】の設定時、プリントモード指定が【HexDump】に設定されている場合、JCLコマンドも【HexDump】で出力されます。  
• JCLコマンドで本機に実装されていないプリント言語が指定された場合、データは消去されます。
- \*補足(1)  または  で候補値を変更するとき、ボタンを押し続けると、連続的に表示を変えることができます。また、 と  を同時に押すと、初期値が表示されます。
- (2) ダンププリントの各列は、次の項目が印刷されます。
- |           |   |
|-----------|---|
| Count     | ジョブの先頭データからのバイト数が印刷されます。  |
| 16進数表記コード | 印刷データを4バイトごとに区切り、16進表記形式で印刷されます。                                    |
| ASCIIコード  | 印刷データをJIS X0201の8単位符号を使用して印刷されます。JIS X0201で定義されていない文字は、「UD」と印刷されます。 |

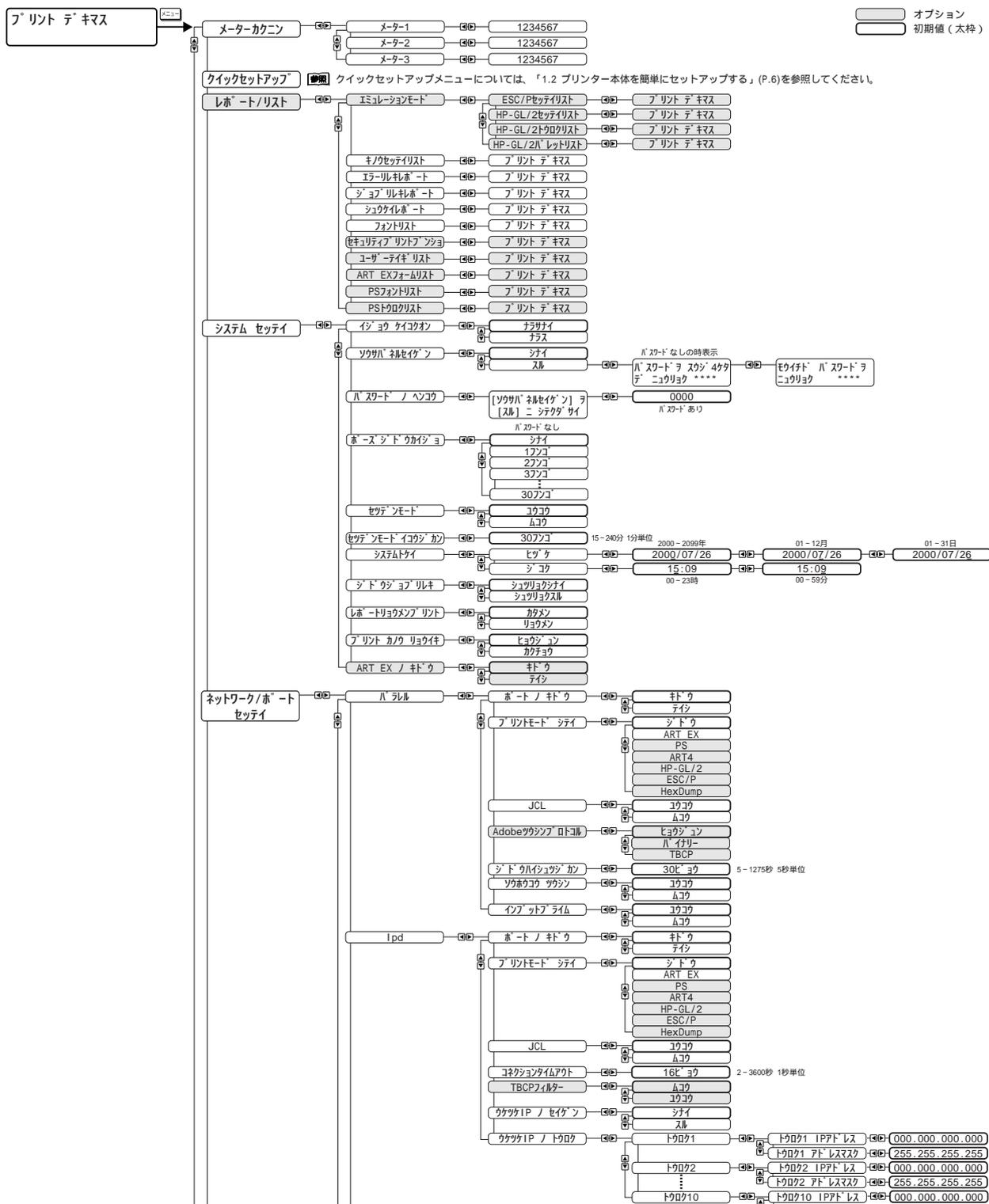
## 8.2.2 共通メニューの設定を変更する

共通メニューの設定方法について、SMBポートを「起動」に設定する場合を例に説明します。



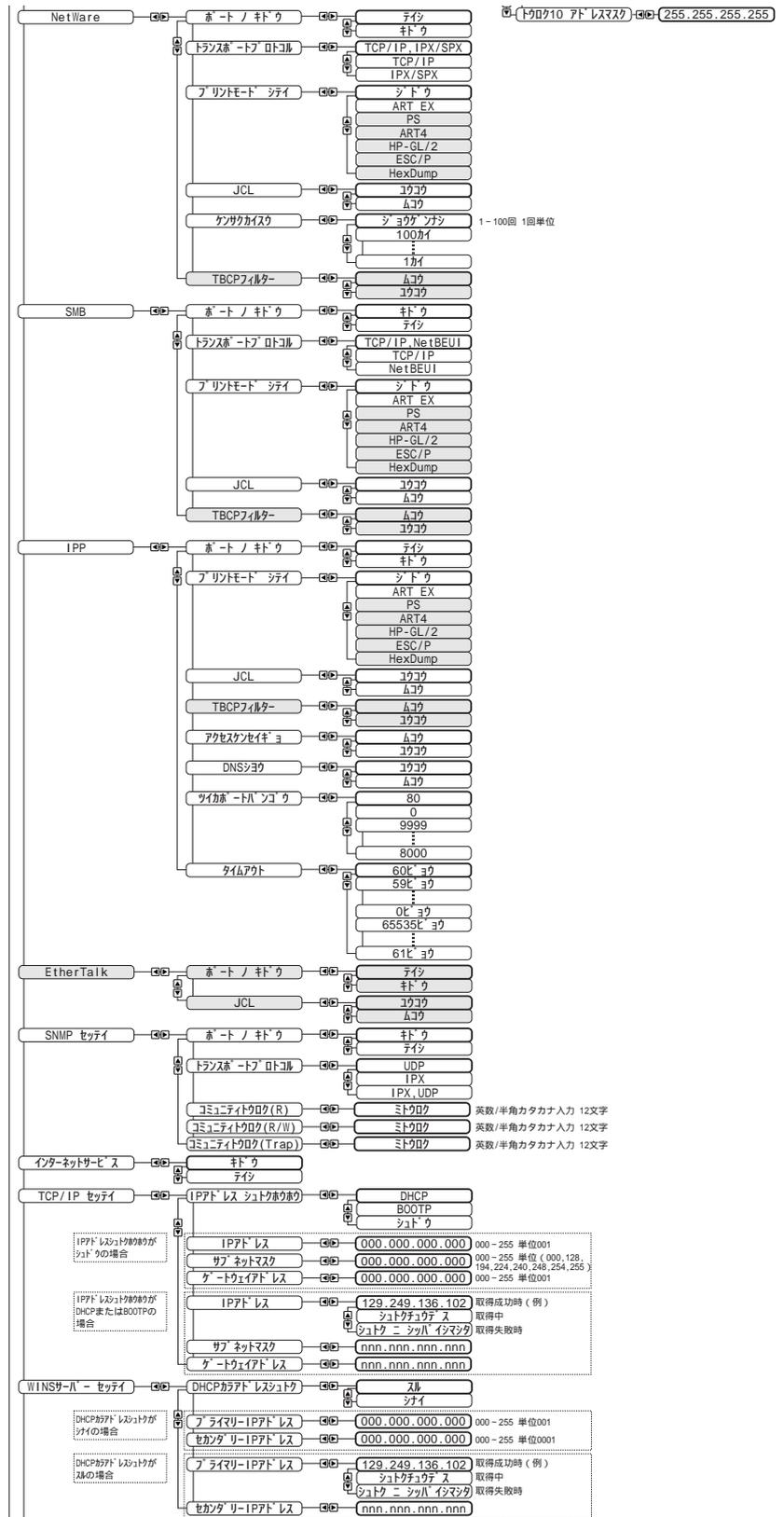
# 8.3 共通メニュー一覽

共通メニューの構成は、次のとおりです。



次ページへ

前ページより



次ページへ



前ページより

